

34  
人平夫慶齋著

廻米記程

發兌書肆 文久堂

特46  
390

茨城  
縣人

平井慶藏著

# 廻米記程

發兌書肆

文久堂

### 廻米記程自叙

一友あり予を訪て曰く君近日北米大陸を旅行し實業  
的研究を爲し併せて彼此優劣を比較し將よ大よ鴻  
利實益を國家に貽さむ事を欲せし然れとも洋の東西  
を問ふに時の古今を論せし苟も新奇の發明ある毎よ  
偏ぬく世上に紹介する所の利器備はれり歐州に航し  
て伊太利の養蠶術を修めんや若くは佛蘭西の製酒法  
を究めんや養蠶の術と云ひ製酒の法といへ既に業  
よ本邦に傳來して一も修業し得られざるかと尙ほ北  
米に遊び加州に農業の要を視察し紐育に商事の精を

練習せんか亦これ其人ありて早く本邦に齎らし己の農民に授けつゝあり商人に傳へつゝあり加之日進月歩の報導つねに相聚まりて堆然山を爲せり必しや君の拾ふ可き遺珠あるらん依之觀之君が今回の旅行の擧たる皆は徒勞徒費に属するのみからん將た君をして草鞋を穿ち藜杖を曳らしむるの餘地を剩さず嗟呼君の何の必要ありて旅行を企つるの願くは君われも其理由を教へよと

予慨然として之れに答て曰く嗟呼何ぞ君の度量の狭隘あるや亦その識見の卑近あるや君の予が今回の旅行を目して徒勞に属するものなりと思へり亦餘地ある事なしと難せり謬見もまた甚しきものなり忘想も亦極まれをと謂ふ可し凡そ歐米の旅行未だ幾多の餘地ある何處ある之れ有る曰く唯その實際を看るよあるのみ曰くたゞ其現況を察するよある耳矣君聞ふすや鴻利を謀るに實際を見るの優れるよ加ふざるをまた聽うだや實益を得るに現況を察するの好きよ及ばざるを蓋し實業の發達を奨励するの方法たる一よしして足らざる雖も要するよ宇内の各國に漫遊して彼の長を取て我の短を補ふの最上策なるを信するあり古

人言はずや百聞の一見に加かずと予て實よこの辭の當れりと知る是れ予が這般に對し蹶然起ちて北米大陸の廻遊を企てたる所以なり

双眸を轉じて本邦現時の狀態を顧睨せよ歐米廻覽の舉あるも概ね官吏の朝命を帶ふものよして吾人實業家の爲めよざるもの極めて尠し而して彼の官吏の歐米漫遊する或は學理の探研も出て或は制度の取調も屬し實業上も與へたる斬新奇警の鴻利實益果して幾何ぞ思ふて爰に至れり本邦實業の萎靡彌々衰頽し傾むく所以のゆれば實み故なきよあらざるあり豈長大息

の至りならずや夫れ然り而して今や予はその一部の旅行を畢り抱負し來る所の感慨多し曰く

實業振興策

通商貿易法

風俗矯正案

殖民移住策

是れなり蓋し予の右等重大の問題も就ては別よ一己の私見を據へて天下無數の同志も質さんるを期せしよ廻米の途次益々思想の區域を廣めたる所のものあり去れり不日を約して一書を草し將よ大に世上同好

の君子よ頌よんじを爰よ廻米記程の稿了り梓に上ま  
るよ臨み聊か所懐を陳へて斯編の叙に代ふ

明治廿六年六月尽日

汽船ゲトリック號に於て

平井慶藏識

凡例

- 一 此編ハ明治貳拾六年四月十八日東京ヲ發スルニ始  
マリ全年七月一日歸朝ニ至ル迄ソノ行程大約一万  
八千哩日ヲ經ルコト七拾五日其間北米大陸ニ於テ  
見物セシ事狀ヲ日ニ繫ケテ記述セシモノナリ
- 一 閣龍世界大博覽會ニ關スル記事ノ最モ多キハ旅行  
ノ主眼ト爲シタルニ據ル
- 一 記事簡略ニシテ緊要ナル事項ノ缺キタルハ旅行總  
日數ノ凡ソ二分ノ一ヲ舟車奔走ノ中ニ消費シタル  
ガ爲メ十分ノ調査ヲ爲ス能ハザルニ據レリ

一此編日誌ヲ以テ体裁ヲ定ムルニ依リ注意ヲ要ス可  
キモノ、如キハ片假名交リ文トシ一格ヲ低書シテ  
本文ニ區別シ井然混淆ノ憂ヲ除ケリ

一地名人名等ハ右傍ニ——ヲ畫シ度量衡ハ直チニ  
合衆國ノ制ニ據リテ之レヲ書シ間々本邦トノ比較  
ヲ詳明ス

一本邦ノ時間ハ桑港ノ時間ニ違ヒ桑港ノ時間ハ波士  
敦ノ時間ニ異ナル之レヲ以テ編中ノ時間亦多少ノ  
差異アルヲ免レズ觀者夫レ之レヲ諒セヨ焉

明治廿六年七月初

著者 又識

### 廻米記程

茨城縣 平井慶藏著

明治廿六年四月十八日午前美時午後曇天

予ハ北米大陸を漫遊し兼て閩龍世界大博覽會を見物せんと欲し午前  
六時新橋發の列車おて横濱に向ふ見送人は坪井岡野鈴木野村喜多川  
等おて總數貳拾七名訖りなり全七時五分着す直ちに西波止場より見  
送人と共に端舟おて送られ太平洋郵便汽船會社の汽船ベリユー一號に  
移れば解纜際のこととて本船ハ艙口より荷物旅客を上下するの響死下  
等支那人の器々たる聲と相應して喧ましく水夫ハ帆と捲き火夫ハ黒  
烟空を燦らする程にたき立てつゝあり斯くて一豚尾兒は金盞然たる  
鐘を突き鳴すよと見る間お見送人と送らるたる予といは是か永年の訣

### 廻米記程

山色水光  
依稀惜別  
情趣可掬

別にやと思はるふ許り悲しかり、兎に角この場の別れの合圖として御機嫌よろしくと云ふやら握手するやら垂頭の禮を爲すやらする間み見送人を載せたる端舟の無情にも陸地を指して漕ぎ歸へられたるを名残なる全十時抜錨汽笛三聲黒烟を残えて徐々進行を始む野毛の山頭本牧の岬角瞬時影を隠し稍あて白扇倒まに懸るてふ富士の山巔も海波の間に没したり午後五時三十分馴れし本邦を望まんと甲板上ふ上れり纒かに其影を留め一葉の扁舟の漂へるに髣髴たり  
明治廿六年四月十九日朝來降雨午後三時頃歇み霽  
船体は東位より向つて進行し午後七時本邦の名残を見んとて甲板上に上るの唯天上一痕の新月と漣波れ上に揺めく風のみなりき  
全年月二十日午前美晴午後曇天  
怒濤艙房を襲ふ則ち船窓閉す晝尙ほ暗然たり午前十一時乗船切符を

眞景航海

奇事

事務長に渡す午後一時種痘を船醫お受く施術は本邦の熊手の如きものよ半痘苗と附し腕を搔くなり夜に入り激浪天を衝て船体動揺し荷物の轉展甚しく奇觀人をして一笑せしめたり  
全年月廿一日曇天夜ふ入り小雨  
昨日に引換へ追手の風さえ強うらな中櫓お張り揚げたる二段目の帆も力なげお僅かに膨みたるは商賈の暖簾程なとし午前十一時予か室を訪ふものあり迎へて入らしむ笑談快話思ひは時を移す蓋し將來の益友とす可きもの静岡の石和熊本の辻東京の杉本橋本堀越の五氏なり  
全年月廿二日午前曇天午後薄晴  
雲低く朝遅し遙に双眸を放て四面を眺むれば太平洋の渺茫として眸涯なく微かに見ゆる煙霞一帯の模糊たるは雲か山か吳か越か將たま



た故國の山川のと暫くハ懐郷の情に堪へざりし

○太平洋舟中

大洋描出

逼真

明治廿六年四月廿三日午前晴天午後曇る

船体動搖少なし打返す雌波雄浪ハ日光お晒されて遠く錦を洗滌する  
かど疑はる蓋し陸地にありてハ夢想し得ざる奇觀なり

全 年全月廿四日暗雲濛々たど

船体稍動搖するを覺ゆ日頃の無聊ヲ誘はれ同室の乗合者と交談す葡  
萄牙男一人米國水兵一人澳斯土刺利亞男一人と東京の杉本某と予の  
五人なり

千八百九拾三年全月廿四日午前微雨午後曇天

船体頗る動搖針路ハ依然として東に向ふ今午迄横濱よりの航程二千

三百十七海哩なり

本日以後西曆ヲ用ヒタルハ蓋シ地球自動ノ原則ニ由レルナリ凡ソ  
地球上ヲ西ヨリ東ニ廻レハ一日ヲ増シ之ニ反シテ東ヨリ西スレハ  
遂ニ一日ヲ減ス故ニ經度百八十度ノ交ヲ過クル時ハ斯ル増減アル  
ハ航海曆法ノ定率ニシテ英國ノ綠牙ヨリ百八十度ノ地ハ即チ太  
洋中ニアリ今予ハ此交ヲ過キ東ニ航セシヲ以テ廿四日ヲ重チテ航  
海曆法ニ合セタリ

全 年全月廿五日朝來微雨午後曇天

激濤いよ／＼甚しきを覺ゆ上等室に交詢社員岡本某を訪ひ教育談ト  
爲す全氏ハ自由教育主義なり

全 年全月廿六日朝來霰降り忽ち歇み曇天

終日艙房にあり臥して書を読み豚尾兒三人予と戯るハの風あり予ハ

好笑々々

憶ふ如何なれのかく妨害を試るかど實の閑談せまほしきを制し腕を  
又き、端と腕ひ彼を直ちお退去と跡海原の如くに茫然  
千八百九拾三年四月廿七日晴天  
海上漠又漠茫又茫無聊又堪えす笑つて前日の支那人を呼ぶ惟言語相  
通せざるの故を以て手眞似若しくハ文字の咄に時を移すのみ

○題しらす

限りなき海の表を見るから胸の狭さと嘆かるゝかな

全 年全月廿八日曇天折々小雨あり

昨夜より船体の動搖烈しく朝來まはしく眞艦に向つて吹き來る逆風  
お揉まを船体の横に揺を縦に動きその様恰も水盤中お木片を投じて  
是れを掻き亂すに似たりピーステキの皿眺りスーアの茶碗倒る呆然  
失望の極なりし

全 年全月廿九日午前曇天午後小雨

船体やゝ穩かなり

全 年全月三十日曇天

海上ハ乗船以來珍らしく靜穩なきハ一人の嘯聲を發するものなし杉  
本某等と甲板上に上り海面を眺む水波渺茫際おし無數の海鳥船尾に  
伴ふて飛揚す其羽毛赭色あり

全 年五月一日曇天夕景より小雨

猶是馬頭  
引續き靜穩甲板に上る婦人客の噂話し老人輩の壯時の失望咄し等交  
々相接して着米を望むものゝ如し午後一時頃北方に當り始めて瀛船  
の駛走するを見る

全 年全月二日午前曇天午後薄晴

おなしく波濤滑かなり正午掲示場に至きハサンフランシスコまで六

十二海哩一海哩は本邦十六丁五十八間三尺にあたるとなり船客の喜び船外も溢きて目出たし  
 午後一時三十分の報鐘耳を徹するの頃北米の大陸雲波の間に隠見の  
 船体の進航に連れ米陸のゆよく大に海鳥の食を追ふて船体も近づ  
 き鯨魚の背を顯はいて船客を駭かし壯快言はん方なし全貳時三十分  
 一小島の横面を過ぐるや汽笛三聲を鳴らし同時に米の國旗を掲ぐ悠  
 々波を蹴て金門海峡を過ぎ砲臺を左傍に見るに當り右位もサンフラ  
 ンスコの全景を望む波止場に近づくや我日本の領事及び合衆國政  
 府の税關吏數名小蒸氣船にて來られ船客の旅券を檢査全四時三十分  
 波止場に着し錨を投して船客を上陸せしむ予を迎ふるもの大久保中  
 澤、築山、鈴木、の四氏なり即ち一行に拉して馬車を驅りフランス、スッ  
 の旅館に投じ午後七時ゼンシー、スッリートに到り廿日振りの垢を滌ぐ入  
 浴料廿五仙の尊きに過ぐるも其壯快なる事を思へば低きを覺へし

## 其快可想

サンフランシスコハカリフォルニア州ノ大都會ニシテ太平洋ニ面  
 シ金門ト稱スル海峡ヲ扼シテ内ニ一大灣形ヲ成シ禿山南北ニ對峙  
 シ絶壁兩岸ニ相逼ル灣内水深クシテ浪青シ海岸ヨリ丘陵ニ懸ケテ  
 築キ建テタル石屋瓦宇ハ高キハ七八層低キモ三四層ニ下ラス參差  
 トシテ相聯ナリ市内ニハ高架鐵道電氣鐵道鋼車鐵道等ノ設ケアリ  
 テ來住ノ便ヲ圖リ商業繁盛民庶富裕ナリ合衆國西部ノ要港ニシテ  
 亞細亞洲及ヒ南亞米利加洲ノ出入貨物ハ皆コノ港ニ由ルト云フ故  
 ナ以テ貿易又々甚メ隆昌ナリ人口四拾二萬餘日本人ノ在留スルモ  
 ノ二千八〇下ラズト云フ

千八百九拾參年五月三日美晴穩和

午前八時旅館を出て税關局に至り携帶の荷物を引取る檢査なか／＼  
 嚴密なり終れハ「サーライト」と云ふ蓋し宜しいといふ義なり正午歸館

故國への書信と認む

千八百九拾三年五月四日美請午後少く雲出つ  
午前八時旅館を發しヘート街に基督教徒青年會に鈴木某を訪ひ午餐  
の饗を受け午後ゴールデンパークに到る

ゴールデンパークハ市ノ北端ニ位シ廣袤五哩一哩ハ本邦ノ十四町四十三間一尺餘ニアラル  
餘ニ互レル一大園ニシテ音樂場アリ博物館アリ植物館アリ養魚池  
アリ噴水ノ設ケアリ運動場アリ四季ノ花木ヲ植エテ整然畫列ヲ正  
ス鳥族館ハ鐵網ニテ造レルーフワーロング一フワーロングハ本邦ノ四百十間二尺四寸餘ニ當ル  
方ノ建築ニシテ中間ヲ人道トシ左右ニ各國ノ鳥類ヲ飼育セリ

○遊金門公園

萬里晴空欲夕陽丘頭一望洗塵腸亭臺堪憩榻堪倚花舞鳥歌春趣長

全 年全月五日美晴

亦奇亦妙

午前八時旅館を發しカチー、スプリート、ムームス商會を訪ひ尋て横濱  
正金銀行出張所ニ到る午後アグリカナル苑の競馬場を觀る

アグリカナル苑ノ競馬場内ニ設置セル廐厩ニハ有名ノ駿馬ヲ飼  
養シツ、アリテ一哩ノ距離ヲ二分十一秒乃至十四秒時間ニ達スル  
ト云フ而シテ一匹ノ代價二萬弗若シクハ三萬弗ノ値ニスルモノア  
リ此競馬ハ本邦ノ競馬ノ如ク騎シテ駛走スルコアラズ二輪ノ輕車  
ヲ架シ歩法ヲ正フシ歩行疾キモノヲ勝トス

全 年全月六日美晴

午前福音會ニ至り石和辻橋本の三氏を訪ひ歸路日本領事館に至る午  
後市立商業學校およひ其附屬室を觀る整頓驚くに堪へたり

全 年全月七日美晴

午前八時マーケットストリートマーケットの海岸に到り汽船ニ搭しオークランド

およびアラノダに至る海岸の風光絶佳なり午後全市の横濱植木商會の會主鈴木氏を訪ひ尋て植物園を觀る日本種及び外國種の花木普ねく蒐列せり

オーストラリアのサンフランシスコト海水ヲ隔テ、相隣レル都會ニシテ人口一萬五千餘水陸運輸ノ至便ナルト果實穀類ノ産出夥多ナルトナリテ商業甚ダ盛ナリ亞弗利加黑人ノ使役セラル、モノ多シ千八百九拾參年五月八日薄晴

月曜なるを以て造幣局ニ到り各室の機械を觀る尋て氣車ヲ移り太平洋の海岸に沿ふてクリフハウスに遊び歸路ロウレヒルの墓所を觀る

クリフハウスハ太平洋ノ沿岸ニシテ突兀タル巖角ニ一亭ヲ設ケ眺望甚ダ佳ナリ亭前ノ海中ニ巖島三四アリテ海豹ヲ畜養シ常ニ數百

群ヲ成シテ遊嬉ス亭後ニ公園アリ百千ノ花木ヲ植ニ脱塵ノ境ナリ目下建設ノ央ナル海水浴場ハ其規模頗ル宏大ナリ

全年九月九日好晴

午前マアケツト街を散歩シサンフランシスコ第一の繁華なる所トシ去てチヤイナタランを過き歸宿す午後七時モロスコセヤタの演劇を見る

チヤイナタランハ廣袤十四町餘ニ涉リ商肆工場妓樓等皆備リ儼然本土ノ北京風ヲ存シ過グルモノナシテ支那國ニ遊ハシムルノ想ヲ作サシム在留ノ支那人三萬ニ近シト云フ

○桑港口占

高閣層樓海水邊。輕車肥馬晚晴天。紅塵如沸人如織。到處街頭聽管絃。  
全年十月十日美晴

午前七時ワシントン・スプリートより汽車に搭し五十哩を距つるサンノ  
 デーに至り果實の栽培法を視察し去りてサンノクラールに趣き鐘詰お  
 よび葡萄酒麥酒等の醸造所と観る午後三時歸市キヤリフォルニア街  
 の紳士の邸宅を見る一戸の平均建築費ハ百五十萬弗に下らすと云ふ  
 千八百九拾參年五月十一日美晴  
 予は風邪の氣味あるを以て旅館あり終日出てす晚餐を了へデュー  
 ポント街其他の夜景を見る

概嘆

デューポント街ハ英佛獨支魯及ヒ日本ノ婦人數百群ヲ成シテ春ヲ  
 嚮ノ所ナリお寄りなさいいらつしやい等ノ甘言ヲ吐テ粹士ヲ招ク  
 白人種及ビ支那人ノ徘徊最モ多シ各戸皆赤色ノ電燈ヲ點シ宛然本  
 邦洲崎ノ遊廓ニ似タリ嗟吁廢唱論ノ先導者トモ云フ可キ米陸ニ  
 テ猶ホコノ種ノ忌ム可キ一隊アリ自由ハ空氣ハ抑制ハ兼ヌルモ其

レ此ハ如キカ記シ了リテ長大息之レハ久クハス

全 年全月十二日美晴

明朝を遠期してこの地を發シチカゴ府に趣かんとす即ち乗車切符等  
 を買ふ續きて行季を準備及午後散髪入浴等をなし汽車内の食料一切  
 を需む

サンフランシスココテ有名ノ大厦ハパイレスホテルニシテ建築料  
 數地ヲ合セテ四百万弗千二百ノ旅客ヲ容ル、ノ準備アリ次ハボル  
 ドーウエホテルニシテ建築料三百五十萬弗ヲ要セリ

全 年全月十三日朝來曇天午前九時より露れたり

午前六時三十分旅館を辭し馬車を雇ヒマーケット突當リは波止場に  
 到リ汽船に乗る二十五分おしてオリクランドのステーションに達す  
 この間の海上に一小島あり下等支那人の勞働者を本國に送還せんと

て集めたるものよしにて多數見え一全七時發の列車に駕したり焚き立てたる石炭の烟ハ萬丈の黒雲を空に躡ひのしてサンフランシスコ灣の浪打きぬを東北に向けサクラメント溪と指して駛行せり

サクラメント溪ハ四時共ニ氣候ニ變化ナキ所ナレハ花咲クモアリ實チ結ブモアリ種蒔クモアリ刈ルモノモアルテウ一種ハ花園ニ等シク殊ニ潺湲タル溪流アリテ其景ヲ輔ケタリ故ニ亦一幅ノ畫圖ヲ逍遙スルノ想アリテ世界著名ノ仙境ナリ

○望櫻綿戶

西北多芳草東南鎖淡霞何邊櫻綿戶綠樹路橫斜

兎角する間ハ列車ハます／＼東北ニ進行し左手に大川右傍ニ青山相逼まるの所に至れハ列車ハ河中へ乗り出すかと思はるゝハ是を河幅の廣さ三哩餘ハ亘ると大艦巨舶の通行常に頻繁なるを以て橋梁を

清絶

架設するに便ならは蒸氣船に載せて彼岸に渡すなり合衆國の曆史上に有名あるキヤリフォルニア州の金鑛ハ世界ハ現ハるを以て本源ハこのサクラメント河の氷底なる砂金の光ハよれりと云ふ全十時三十分サクラメントに着す下車して市内を觀る

サクラメントハキヤリフォルニア州ノ首府ニシテ其地積ヨリスレハ我日本國ヨリモ尙ホ廣大ナル合衆國內ノ一洲ヲ統治スル行政立法司法ノ權力ノ集合スル中心点ニシテ道路端正街衢濶通商肆頗ル富メリ人口二十五萬餘本邦人ノ在留スルモノ亦少ナカラズ此府ノ近傍ハ地味豊饒氣候穩和果實ノ産出夥シク合衆國第一ノ美景地ナリ

議事堂ハ府ノ中央ニアリ合衆國人ノ所謂金鷲議事堂トテ評判高キモノナリ其構造ハ周圍凡ソ十町四方ノパーク内ニ大理石ヲ以テ高塔ヲ築キ建テタルモノナリ而シテ其内部ノ裝飾亦頗ル美觀ナリ

廻米記程

正午列車の鈴と鳴らして東北へ走り出つ田野の耕墾果樹の繁茂甚た愛す可きものあり

影くらく茂れる木々のわか緑夏このもし死所なりけり

午後二時三十分汽罐車一輪を加えシャーラチアタの山麓を迂回するや谷を渡り川を超え山骨を馳せ或る時ハ黒龍天に朝をるり如く或る時ハ鵬鳥翼を張りて洞底と降るに似たりと雖もこの邊積雪皚々地を掩ふこと厚く時々崩雪の憂なる爲めスノーシューと稱して鐵路を跨けて屋蓋を築造しつゝあきの宛然墜道の如くにして四方を眺望する事能はざる殆んと三時間餘これよりハ千里一望の曠原にして砂石礫礫水泉乏しく唯眼眸を觸るゝもこれハ尺を満たさる雜草と磊々たる塊石のミ有名のチヴァタハ平原是れなり

チヴァタハ平原ハチヴァタ洲ニアル瘠地ハ一大砂漠ニシテ熱キ時

ハ地獄ノ如ク寒キトキハ氷海ノ如シトカヤ合衆國人ノ西大陸ノ砂漠ト稱スルモノ即チ是ナリ去レハ終歲雨雪ノ度ナク土地ノ乾燥スルコト極マリナシ此レヲ以テ漆器類ノ粗造ナルモノ若クハ巧妙ナリト稱シテ價數百金ヲ抛テル時繪細工モ大約剝落スルヲ見ルト云

午後七時四十分ウエノステーションに達す暗くして見え

千八百九拾參年五月十四日美晴  
夜來既に千里を馳せて朝暾溪間を照らす車窓より見る所ハ唯漠々たる平原と突兀たる赭山のみ猶も列車ハ進行倦ます嗟嘆たる溪谷の間を駛走す

### ○曉過郊原

曉來群嶺外、牧馬步平岡、隱見垂楊裡、沿溪飛燕斜。

午後四時近きより北と南の追分驛オクテンにて車を換へ鈴聲踏々白



雪を載ける峯巒の間を馳すこの邊山麓を沿ふて概ね村落あり全六時に至り鹹湖を見る水鹹らし故にこの名ありと云ふ大さ本邦の琵琶湖に比す可し牧場麥隴の間湖影未だ隠れざるに早くウツアソルトレーキよ着す下車して街頭を散歩すインデアン土人車傍に來り菓實マツナス等を鬻く旅客頗る之れを便とす

ウツアソルトレーキハチゾア洲ノ都會ニシテ後ニ聳ユルノ青山萬里ニ亘リ人家稠密市街清麗電氣鋼車ノ諸鐵道アリテ往來甚ダ便ナリ而シテ彼ノ山際ニ沿フテ構造ノ美ナルハ達眼慧敏ナル白人ノ住居ナリ叢間地凹ノ草芊々タル邊ニ古板葺ノ茅屋壁破レテ風ニ吟シ軒傾キ月ヲ漏ラシ纒カニ雨露ヲ凌キ得ルカト疑ハレ路傍ノ草間ニ坐シテ嘯クアリ樹蔭ニ横ハルアリ朝夕漸ク其口ヲ糊シ又餘財ナシコレ固有ノ性質ヲ帯ヒタル黑人ノ一群ナリ總シテ人口十萬五千

餘曆史上事蹟ヲ有スル著名ナル所ナレトモ爰ニ贊セズ午後七時列車ハ進行を始む此邊の山蔭インデアン土人の部落ありその住居ハ天幕を張りて造れる最とも粗末なるものなり

三四悲愴

○晚過鹹湖市

水光山色夕陽収。一片郷心付白鷗。湖夜鹹湖街上寂。胡笳何處送新愁。

全年全月十五日午前美晴午后曇天

車窓に映する所唯荒涼或ハ林木濛密の中は行き或ハ巖壁立の間を奔る午前五時コロラドと稱する金坑れある所を通過するや列車ハ望ヤロツキー山の麓お着きたり見上れハ鬼斬一刀ハ削りなせる怪岩空に聳へて其色赤く俯眺す其ハ萬仞の淵底雲霧深く封じて晝尙は暗し奇絶壯觀眼喜ハ魂驚ク願みれハ人工の神お通するを思ハ列車を架したるの意外なるお悚然として粟を生せり合衆國人ハ世界奇觀の一な

宛然一幅  
勒機山活

り、と場言するも、理屈なりとす、これ邊を總稱して、ローヤルゴージと云ふ列車のます、進行するも、隨ひ一山後へに去れ、一巒前ふ來り急湍激流岩を碎た石を穿ち、澗底地裂くるの所、飛泉紅霓を顯はして、時ちらぬ花を木梢に咲かせ、峯容樹色いよく、奇なり、處斑らみ、茂生する、唐杉ハ半は千古れ雪に理れて、吹た荒む山風、み枝葉を揉み挫かれたるも、散在せり、宜なり、英國人のロッキー山の名を附したるもの蓋し、ロッキー山といふ嚴石の義なり

○過勸機山

崎嶇路在亂巒間、僅出雲關、又石關、一鳥不鳴、人不見、夕陽、矗立、落機山。午後一時列車ハ山嶺み達、此より以前と異なり、張り切りたる奔馬の如く、山ども谷ども言はず、急降す坐るも冷汗を流すの思、ありキカナンてふ所に達する迄ハ、更らに珍らしきものもなく、唯坂路急にし

爽岩壯逸  
百誦不飽

て勾配の峻しき所の軌道を渦卷の如くみ敷設しあり故に山麓み沿ふて屬々廻轉するうち午後四時廿分に至りキヤナアンに着、此時に斜陽遠く山頭の白雪を照す全五時三十分、フロンヌを過く、菓樹牧場等多し暫くよして日暮れ唯月影に窓外の田圃を眺め得るのみ、夜色水烟を帯ひて濛朧たるころ、デンウアー市に達す時午後十時十分なり、即ち下車して宿に

千八百九拾參年五月十六日美晴午後曇天

午前七時旅館を發し市内を巡視に

デンウアーハコロラド洲コアル巨驛ノ都會ニシテ地勢高燥水利ノ便ナシト雖モ軌道四通シ北ハ沃野遠ク速ナリ南ハ丘陵ヲ帯ビ市街整正家屋櫛比シ其繁盛ナルコトサンフランシスコ港ニ讓ラズ蓋シ斯クノ如キノ繁華ヲ極メシモノ此市ノ近傍普ク金屬礦物ヲ產出ス

ルコ據ルト云フ人口大約八萬五千餘アリ

午後二時珈琲器械製造所を観る使役はる職工多く規模頗る宏壯あり  
この地の松樹ハ總て一葉なり全十時十分乗車オーマハに向ふ  
千八百九拾三年五月十七日美晴

午前六時二十分ケンブレーに着すまの邊沃野萬里に連なり牧場麥圃  
累々として相接す午後三時五分オーマハ市に達す下車して市内を廻  
遊す

明記繁盛  
之所由起  
決非徒作

オーマハ市ハ一千八百六拾九年本邦ノ明  
治二年頃ハ其名ヲダモ知レルモ  
ノ稀ナリトカ聞キヌルガ今ヤ中々コ繁盛ニシテチブラスカ洲ニ於  
ケル著名ノ市區トハナレリ市街ノ規模ハデンヅアーコ伯仲シ處々  
コ烟突ノ雲表コ聳ユルヲ見ル蓋シ斯ノ如キハ雄象ヲ爲セルモノ實  
ニ近郷ノ土壤肥沃ナルト牧蓄事業ハ進歩セルトコ由レリ人口亦七

萬ノ上ニ出ツト云フ

○於摩波偶吟

鳥啼花謝夏初天。簇々黃雲滿大田。一枕薰風南院外。芭蕉影裡雪芽煎。

全 年全月十八日美晴

午前旅館を發し市の極南に位し五哩を隔つるプルマン會社を見る終  
りて製造諸品を餞せらる

プルマン會社ハオーマハ市ノ極南ニアリ牛豚羊等ヲ屠殺シコンピ  
ーフ、バター、チーズ、ハム等ノ罐詰ヲ製造スル所ナリ而シテ其用ニ供ス  
ル罐及ビ箱モ亦皆蒸氣機關ヲ利用シテ之ヲ造ル場内ニ會社専用  
ノ鐵道アリ既成品并ニ生獸等ヲ運搬ス蒸氣罐車ハ十餘輛ニシテ使役  
スル職工ノ數一千五百人アリト云フ以テ其組織ノ大ナルヲ知ル可

午後三時全會社ヲ辭シ全四時二十分乗車シカゴ府ニ向フ

○從於摩波赴市俄高途上

鐵輪破雷響轟々一瞬奔過百里程。澤々牛羊平野外。飛鴉背上夕陽斜。市の盡る處大河あり鐵橋と架すミヅリー河これなり河より以東の概ね平野として牧場相累なり人烟の輕く揚るを見る

○彌曾流河よて

若蘆よこや風みえてミヅリーの河なつかしき夏の來あけり日輪隠れて新月顯はる既にして林間艸裏に点々燈火の出沒するありこれなん農を稼ぐの住居なるべしと窓外を眺むるうち夜色沈々臥床と作らしめて眠に就くスリピンカーこれなり

スリピンカーの腰掛臺ヲ取展シテ平線トシ天井ノ釣板ヲ外ツニコノ中ヨリブランケット蒲團枕等出テ來リテ寸時ニ上下二個ノ寢臺ヲ

夜色如視

現出シ其前面ニハ厚布ノ幔幕ヲ打繞ラスノ趣向ナリ

千八百九拾三年五月十九日天氣晴朗

流笛夜より續きて豊饒の沃土あふる草繁り木茂る一瞥農業の盛なるを見るよ足る花開き實結ひ予そのチカゴ府に近死を悟る列車は轉一轉体ひなく倦むなく午前八時十分着す午餐を終へ穀物取引所市民俱樂部市役所郵便局等を觀歸路ストップヤイトに到る

シカゴ府ハイリノイズ州ノ大部會ニシテ地勢南北ニ長ク東西ニ稍狭ク東ハ繁華ナル街脚ヨリ浸々トシテミシガン湖面ニ臨ミ西ノ方ミカゴ川ハ府ノ部外ヲ繞リテ北方ヨリ廻流スル所ノカネソット川ト合シ府ノ中間ヲ貫キミシガン湖ニ入ル故ニコノ湖ノ水利ニ依リテセントローレンス及ピキヤナメニ通シ又イリー運渠ヲ經テハトソン川ニ出テユニョークニ下ルヲ得ベシ府ノ面積ハ南北二十哩

麵米記程

大都狀況  
叙得詳密

東西十里餘ナレトモ尙府外數哩ノ間ハ人家斷續シテ紳士ノ別邸等  
 點在シテ探勝ノ地多シ故ニ數多ノ軌道ハ晝夜ヲ別タス往來絶ユル  
 コトナシ聞ク一日ノ出入客車ハ九千餘輛ニ上ルトマタ以テ其繁盛  
 ナルヲ推スニ足ル可シ而シテ其中央ノ市區トシテ商賣最モ隆盛ノ  
 地ハ湖面ヨリ河邊ニ沿ヒタル場所ニシテ商店劇場會堂等ノ重ナル  
 モノ皆コノ中ニアリ孰レモ六層以上ノ高厦ニシテアウグトリアム  
 ノ如キハ十二層ノ大建築ナリソツク教會ハ二十層ノ宏大ナル  
 構造ナリマタチカエ川ニハ旋閉橋ヲ架シ大艦ノ出入ヲ便ニス河底  
 ニハ墜道ヲ穿チテ衆民ノ來往ヲ得セシム街上高架鐵道馬車鐵道網  
 車鐵道等ノ設ケアリ行人織ルガ如ク輪蹄ノ響絶ユル時ナシ眞ニ熱  
 鬧ノ市街ナリ夫レ同府ノ如斯ノ繁盛ヲ來セシモノ實ニ近郊土壤ノ  
 肥沃ナルト物産ノ豐饒ナルトニ起由スルノミナラズ鐵道ノ世界第

ハ中心点ナルニ依レリ人口百七十五萬餘ソノ百分ノ九十一ハ諸外  
 國ノ移住者ナリト云フ

ストツクヤードハ合衆國屈指ノ蓄類屠殺場ニシテ諸種ノ獸肉ヲ四  
 方ニ販賣ス而シテ其屠殺宰割總テ機械ヲ以テス牛豚ヲ屠ルカ如キ  
 ハ鐵環ヲ以テ片足ヲ鉤シ以テ倒懸シ次ニ其喉部ヲ刺ス叫鳴ノ聲遠  
 シ響ク又コレヲ熱湯中ニ投シ毛皮ヲ去リ肉ト骨トヲ頰チ然ル後コ  
 レヲ罐詰ニ燻製シ或ハ脂肪ヲ取ル等瞬息ニ辨ス一日ニ屠殺スル所  
 ノ數大約五千頭ニシテ一ケ年ノ販賣高五千萬弗ニ上ルト云フ使役  
 スル所ノ人員一千三百名ニシテ建物ハ三十一エーグル一エーグルハ本邦  
 ルノ廣サニ互リ軌道ヲ構内ニ通シテ各地ニ分送スル肉類ハ氷庫ニ  
 入レ流車ニテ發遣ス

千八百九拾三年五月二十日美晴

午前八時旅館を出で閣龍世界大博覽會場に入り園藝館漁業館および行政館を観る

○閣龍世界大博覽會

層樓高闊向半天開絡繹輪蹄先後來四海奇觀快盡在名聲不怪到邊陪

○おなし心をよめる

世をひろきもの多けれど残りなく集えてこゝにけふ見つる哉

園藝館ハ東ノ方入江ニ面スル長サ一千呎一呎ハ本邦ノ一尺〇〇三六ニ當廣サ二百五十

呎中部ノ室ニ圓塔ヲ設ケ左方ヲ菓實館トシ右方ハ温帶地方ニ産ス

ル植物ヲ蒐集ス別ニマター棟アリテ寒帶地方ニ産スル植物ヲ集ム

其建築ニハ三十万弗ヲ費シテ館内ヲ葡萄栽培製品及其方法要具

○菓實製品其方法及器具○育花○庖厨用蔬菜○種子採収試験及交

換○育樹○其方法器具等ノ七大部分ニ分テ更ニ之ヲ小別シテ七拾四

博覽會規  
摸廣大品  
物亦衆多  
寫出甚難  
此編輕々  
叙去區劃  
判明何等  
巧手

類トナセリ

漁業館ハ行政館ノ北部ニアリ長サ一千一百呎幅二百呎ニシテ中部

ノ館内ニハ漁網釣鉤ノ類ヨリ漁艇漁舎ノ雛形ヲ聚メ右翼ノ一館ヲ

鹹水淡水若シクハ瀑流等ニ生息スル漁族ヲ貯養シ左翼ノ一館ハ海

豹珊瑚龜蟹貝殼牡蠣等ヲ蒐列ス而シテ其建築費ハ二十万弗ヲ要シ

タリトシ

行政館ハ場内ノ西南部ニ位シ背部ニ高架鐵道ノステーションアリ

建坪二百六十二方呎ニシテ四邊ニ八拾二平方呎ノ亭ヲ設ク而シテ

館ノ四面ニアル入口ハ五十呎ノ高サト五十呎ノ廣サト有セリ美

麗ナル裝飾ヲ加エタレハ燦爛人目ヲ驚カス而シテ其費用ハ實ニ四

十万弗ヲ要シタリト云フ

全 年全月二十一日薄晴

午前九時旅館と發し博覽會場へ行く日曜の故を以て閉鎖す歩を轉じてフリスホイルを昇り歸路メソック教會と觀る共に府内無比の高厦にしてその絶頂に至るに全府目下に聚まるこの日天氣薄晴なりしも氣象殊に豁然たるを覺ゆ

一大工事  
叙去明瞭

フリスホイルハ博覽會場ニ近接スル處ニ据付ケタル巨大ノ圓車ニシテ宛然本邦ノ水車ノ如シ直徑二百六十二呎アリテ殆ント行政館ト高サヲ全フス而シテコノ車一轉スルコ凡ツ二十五分ヲ要ス周圍ニハ三十六個ノ客室アリ一室ニ六十人ヲ容レテ自由ニ廻轉スママ夜コ入レハ三千ノ電燈ヲ點シ美觀ヲ添フ而シテ之レヲ廻轉セシムルコハ二千馬力ヲ要シ建築ニ四十万弗ヲ費セリト云フ其規形ノ宏大ナル驚クニ堪エタリ

メソック教會ハ間口百十七呎奥行百十四呎ノ角形ナル構造ニシテ高サ二百六十五呎アリ之レヲ二十層ニ分テリ又新摩天閣ト名ツクル大字ハ十六階ニ過キザルモ背ホメソック教會ト全様ノ高サヲ以テ成レリ

一千八百九拾三年五月廿二日曇天

午前七時三十分博覽會場より到り農業館山林館乳酪館并ひに婦人館等を廻覽す

農業館ハミシガン湖畔ニ臨ミ四面殆ント入江ノ爲メニ圍繞セラレタル古風ノ建築ニシテ長サ八百呎廣サ五百呎アリ館ノ四隅及ヒ其中央ニ高亭アリテ中央ノ亭ノ高サ百四十四呎アリ館内ヲ穀類及ヒ蕎草○麴包ビスクエツト澱粉糊類○砂糖舍利別菓子類○爪哇薯塊根及ヒ根菜類○貯藏肉類及ヒ食品調理法○他部ニ編入セザル農作物○茶珈琲香料蛇麻草芳香性植物等○動植物織緯○天然若クハ人

造ノ清水及礦水○ウヰイスキ―林檎酒利古兒酒及ヒ亞兒古保兒○  
 麥牙酒○醱酵蒸溜燻詰及ビ貯藏ノ方法并ニ器具機械○農場及ヒ農  
 場建物○農書及ヒ農業統計○農用機械器具○諸動物ノ生産物及ヒ  
 肥料○脂油石鹼蠟燭類ノ拾七部ニ大別シ更ニ之レヲ區劃シテ九拾  
 四類トナセリ

山林館ハ會場ノ東南ミシガン湖畔ニ面スル所ニアリ最モ質朴ナル  
 建築ニシテ長サ五百呎廣サ二百呎アリ用材ハ皆合衆國ノ各州ヨリ  
 寄附ニナリタルモノナリト云フ館内チ木材標本○加工建築材○裝  
 飾用材○森林植物○森林ニ關スル教育ノ方法及ヒソノ制度等ノ數  
 十類ニ區別セリ  
 乳酪館ハ山林館ニ隣レル長サ二百呎廣サ九十五呎ノ二階造ニシテ  
 牛乳牛酪乾酪チーズ及ビ其器械機具類桶等ヲ蒐集セシ所ナリ

婦人館ハ會場ノ西北部ニアリ間口二百呎奥行四百呎ヨリナレル一  
 大巨館ニシテ建築費ハ二十万弗ヲ要シタリ婦人ノ技藝ヲ裝勵セン  
 トテ組織セルモノニシテ陳列セシ諸品ハ總テ婦人ノ手ニ成リタル  
 モノヲ蒐集セリ

○婦人館にてよめる  
 おき渡す露ぞうれしき女郎花けふよりことよ色やまさらん

一千八百九拾三年五月廿三日朝來小雨寒冷甚だし  
 午前七時例おより博覽會場に入る電氣館機械館米國政府品陳列館等  
 を廻覽し午後三時歸館す蓋し會場の陳列未だ悉く整頓せざるを以て  
 合衆國東部の諸名市を廻歴し歸路を約して之を見物せん事を欲す  
 れいなり

電氣館ハ南ハ廣庭ニ面シ北ハ入江ニ臨ミ長サ七百呎廣サ三百四十



五呎ニシテ一面ノ高キ所ハ百拾四呎アリ又館ノ四面ニハ高サ百六十九呎ノ塔ヲ設ケタリ建築ニハ三十七万五千弗ヲ費シ館内ヲ電氣磁氣ノ現象及ビ其法則ヲ説明スル器具○驗電器○電池及ビ電氣溜○機械力ヨリテ電流ヲ發生セシムル機械用具○流電氣○電流ノ傳送及ビ調制○電氣發動機○電燈○電熱法○電氣冶金及ビ化學○電氣鍛煉鍛合打印燒入鐵附等○電信及ビ雷氣信號○電話及ビ附屬具○蓄音器○諸醫術用電氣○前ニ記載セザル諸般ノ電氣應用○電氣發明ノ沿革及ビ統計○電氣學及ビ其構成ノ進歩發達ノ十八部ニ分チ更ニ六十三類ニ別テリ

機械館ハ電氣館ノ背部ニアリ廣サ八百五拾七呎長サ五百呎ニシテ附屬館ト共ニ百二十万弗ヲ要シタル大建築ニシテ行政館ニ匹敵ス可キモノナリ館内ヲ發動機發動及ビ傳動裝置水力及ビ氣力應用裝

置○消防器械消防裝置及ビソノ用具○諸金屬工用具及ビ機械○織維製品及ヒ衣服製造用器械○木工機械○活字組立印刷極印刷製本紙細工用器械及ビ其裝置○石版術亞鉛版術及ビ彩色印刷法○圖書ノ機械的寫真印刷法及ビ其他ノ器械的印刷法○諸種ノ手工具諸工藝用ノ器械并ニ裝置○石粘土ソノ他諸礦物工業用機械○食物調製器械并ニ器具等ノ十一大部ニ區別シ更ニ之レハ八十六類ニ小分セリ

米國政府品陳列館ハ三エーケル十分ノ六一エーケルハ本邦ノ面積ヲ有スル大館ニシテ合衆國政府ノ文部農務郡政商務海陸軍及ビ其他諸省ノ所藏ニ屬スル機械器具農產物文書軍器等ノ雛形等ヲ普チク陳列シタル所ナリ

千八百九拾三年五月廿四日美晴穩和なり

午前六時十分シカゴ府の旅館を辭しヒイラデルヒイヤまでの乗車切符を購ふ全三十分發車及汽笛三聲黒龍の烟を吐きて高く半天の雲を破り忽ち山忽ち水電柱飛ひ麥圃奔り轉瞬の間ピッツボルク市に達し時を午後六時四十五分なり下車して市内を逍遙す

ピッツボルクハ前ハ田圃ニ接シ背面丘陵ヲ負ヒ街衢井然トシテ區別正シク家屋モ亦概シテ清潔ナリ諸種ノ鐵材及硝子ノ製造ヲ以テ世ニ稱セラレ、小都會ナリ

午後七時十五分列車ハ東南ニ向ふて進行セリ

千八百九拾三年五月廿五日終日曇天肌寒し夜に入り小雨

雲低く朝甚だ遅し午前七時四十五分ヒイラデルヒイヤに著す下車して予が遠友岡野氏を訪ふ居らす歩を移して市内に散歩す

ヒイラデルヒイヤ府ハペンシルバニヤ州ノ首府ニシテ市街廣敞頗

ル整齊セリ而シテ層樓傑閣ノ巍然タルモノ多クハ大石ヲ以テ築造ス亦電氣鋼車等ノ軌道縱横ニ貫通シテ商肆ノ繁盛多ク見ザル所ナリ人口大約十五万余

○岡野氏を尋ねて逢はず

折角にたつねてたにも逢ひぬ哉君かなさけを思ひ來ぬれど

午後二時三十分乗車ワシントン府に發せ全五時四十分にして抵るこの間原野廣衍牧艸繁茂シ牛馬羊豚等を放ち處々群を成せり

ワシントン府ハポトマック河ノ左岸ニアリテ地勢高燥沃野遠ク連ナレリ合衆國政府ノアル所ナレ共敢テ貿易ノ要衝ニ當ラザルヲ以テ市街熱鬧ナラズ宛然日本ノ西京ヲ見ルノ趣キアリ然レモ屋宇ノ建築ハ率チ宏壯ニシ商賈富裕也府ノ外部ハ概チ紳士ノ第邸ニシテ庭前ニ四時ノ花木ヲ植エ綠樹繁茂シ噴泉飛進シ自ラ林園ノ趣ヲ成シ一種

脱塵ノ風致アリ人口四十萬七千余ソノ三分ノ一ハ黑人種ナリト云フ

○華盛頓府にて

馬くるまうるさきよりうれし死の静かなる都なりたり

千八百九拾三年五月廿六日曇天

午前九時旅館を發し府内を緩歩シワシントン紀念表及び政事堂諸官衙を觀る

ワシントン紀念表ハ工資百萬弗ヲ費シ經始ノ後十四年ノ長日月ヲ經テ竣功セシ程ノ一大建築ニシテ方尖形ヲナセル高標ナリ其全部ハ大理石ヲ以テシ高サ五百五十呎基趾ノ廣サ百二十六呎ニシテ内部ハ空虚ナリ有名ナルワシントン將軍ノ紀念ノ爲メトシテ各國ヨリ寄贈サレタル寶物ヲ秘藏スル所ナリ

午後一時博物館を觀る

博物館ハワシントン紀念表ニ近接スル所ニアリ巨大ナル石材ヲ組ミ成シタル宏壯ナル建築ニシテ動物ノ剝製若シクハ魚族ノ乾造シタルモノヲ普チク陳列セリ

全三時四十分列車ヲ乗ル車窓に映スルものハ肥沃たる麥圃と廣漠たる牧場にして水利の便ニ富めるハ殊に驚く可きものあり路傍の草花色を呈し燦爛笑を含む風景頗る絶佳なり全八時二十分にしてニユーヨーク府ヲ達ス

全 年全月廿七日朝來曇天直ちニ美晴ニ復ス

午後旅館を發し府内を徘徊シ株式會所紐育商業會議所等を觀故大統領グラント將軍の墓ヲ謁ス墓ハ府の西端ハドソン河ニ臨ミ綠樹蒼然風景佳絶の境なり午餐を了シ午後セントラルパークに遊ぶ

ニユーヨーク府ハニユーヨーク洲ニアリハトソン河ニ臨ミイース

紐育府是  
北米名都  
詳記逼真  
妙可

ト河ヲ隔テ、ブルックリン市ニ隣リ東ハ遙カニ海洋ヲ隔テ、歐洲ニ  
相對シ外國貿易ノ咽喉ニシテ灣内水深ク浪平カナリ大小ノ船舶黒  
烟ヲ吐キ雲ヲ燃シテ往來シ帆檣林立其數ヲ知ラス街衢廣濶高樓厦  
屋臺ヲ連テテ雲表ニ鱗次ニ買舖ノ殷富ナル物産ハ繁盛ナル世界ノ  
大都ヲ以テ目セラシ高架鐵道電氣鐵道鋼車鐵道等ノ敷設アリテ市  
内ヲ縱横シ行人織ルカ如ク肩摩殺擊車馬絡繹士女群集シ夜ニ入レ  
ハ無數ノ流燈ヲ點シテ光明白晝ヲ欺キ形勢自カラ雄壯ナリ人口壹  
百八十五萬餘ソノ十分ノ八ハ皆他國ヨリノ移住ニ係ルト云フ而シ  
テ亦黑人種ノ數甚ダ多ク每戸ニ使役セララル、ヲ見ル

○紐育府

儼然北米大京華、街道砥平、走流車、厦屋相運輸、美鐵橋堤、畔景尤嘉、

○吊虞蘭土將軍墓

感慨淋漓

石逕攀來感慨多、多情猶記凱軍歌、碧苔滿地香烟絕、只有新鵬一叫過、

勝區可想

セントラルパークハ府ノ中央ニ位シ廣サ六百三十三エーシャルニ互  
ノル一大園ニシテ林丘池渠ノ設ケアリ、處々ニ房舍ヲ排置シテ滿園  
深鬱噴泉ノ迸出スルアリ動物ノ放飼セルアリ爲メニ士女ノ晴ヲ趁  
フテ來遊スルモノ甚ダ多ク車騎常ニ絡繹タリ而シテ其修築ノ美ヲ  
極メ清爽ノ思ヒ禁スル能ハサルハ予カ益友穆堂ノ吟ニ徵セ

○紐育公園稱仙土羅流公園府中爲最大 在紐育 穆 堂

十里之園十里池、干花干月四時宜、亭臺可憩榻可倚、晴時殊好雨亦奇、  
府民相謀築此苑、來往自由無公私、舟耶筏耶任他擇、有車有馬宜以馳、  
孔雀引雛碧桐阜、老猿乳兒翠松枝、異艸奇花千又百、人間其名多不知、  
奏樂堂邊佳人集、噴水器畔兒童嬉、博物館聳曲池上、天下奇珍集于茲、  
園南更構動物苑、小禽猛獸雄與雌、丘上石塔形如鍼、云是紀元年前碑、

平井東洲  
曰筆底有  
畫蓋有三  
秋之思矣

又曰辭氣  
鬱勃悲壯

突兀凌空高百尺。遠徒埃及舶載來。滿都士女簇如雲。都在十里園池隈。  
 吾亦來憩樹蔭石。空對風物感今昔。聞說英兵跋扈時。此境無總不荆棘。  
 魅魍作巢豈冥々。豺狼橫路夜寂々。厚歛無厭恣貪婪。苛虐不憚逞猖蹶。  
 天人共怒專橫甚。十三州民怨透骨。正氣所凝嚴於霜。誓為國家攘讐敵。  
 伐竹為槍席為旗。手拋來耜執矛戟。糧盡城陷兵益振。父死子歿憤愈激。  
 寒瘡吮血入春秋。沐雨梳風三千夕。躡而又起倒又立。自由之旗獨立檄。  
 精神所到感鬼神。遂破英兵保社稷。爾來一百有餘年。休兵放馬民安息。  
 共和政治致殷富。荆棘變化黃金國。如何六十餘州民。曾受外侮知幾年。  
 國稅元有約束存。金幣為耗財理紊。政法權亦被限制。勢力日盛國步難。  
 况又兄弟內相鬪。或恐禍在肅牆間。孟鷓擊壤太平春。東海元多好山水。  
 不用十里築公園。天然之山天然水。襟帶長護別乾坤。古往今來感無極。  
 秋風蕭々客衣寒。

○觀仙土羅流公園

奇花珍艸競芬英。吟客登臨聯袂行。築石依然青十里。滿園風景畫難成。  
 千八百九拾三年五月廿八日美晴

二大美觀  
記行中不  
可缺也

午前七時四拾五分旅館と發し。サンディフークの港頭に抵り。ベットロー  
 ス島の自由神女の銅像を望む。大西洋に狂瀾を航して英國のリバープール  
 港に向ふもの皆こゝまで船と海程纒かに七日路なり。杖頭一轉ブルック  
 リンに大鐵橋を涉りブルックリン市に遊ぶ。

自由神女ノ銅像ハ、ブットローフ島ニアル巨大ナル建築ニシテ、頭上ニ  
 燈火ヲ安シシ稱シテ世界ヲ照ス。自由ト云ヘリフランス國人ノ寄贈  
 ニ係ルト云フ世界著名ノ彫刻師バルトルシ氏ノ鑄造スル所ナリ。而  
 シテ其重サハ銅ノ部分十七万六千ポント、一ポントハ本邦ノ百鐵ノ部分  
 二十六萬四千ポントニシテ高サ百五十一呎、臺柱ノ高サ九十一呎、基

廻米記程

礎ノ高サ五十三呎總計二百九拾五呎ノ高サアリト云フ  
 ブルックリン大橋ハイースト河ニ架シ長サ五千九百八拾九呎ニシテ  
 橋ヲ五部ニ分ツ中部ハ長サ千五百九拾五呎兩傍ニ高槽ヲ對築セリ  
 機ヲ距ツル各九百三十呎ノ處ニ鐵鎖臺アリ夫ヨリ橋際マテニコ  
 ヨーシノ方千五百六十三呎ブルックリンノ方九百七十一呎ナリ而シ  
 テ鐵鎖臺ヨリハ鋼鐵ヲ以テ製シタル繩ノ徑十五インチ餘一インチハ本邦ノ八分  
 三厘六毛ノモノ四條ヲ擊キ高槽ヲ通シテ之レヲ架シ別ニ大小數多ノ  
 鐵繩ヲ引テ橋ヲ支ヘタリ殊ニ中部ノ橋桁ハ河ノ高水點ヨリ高サ百  
 三十五呎アレハ如何ナル大船モ自由ニ來往スルコトヲ得ル世界著  
 名ノ大橋ナリツノ經費ハ凡一千五百萬弗ニシテ十四年五ヶ月餘ノ  
 長日月ヲ費シ十年ヨリ前年以前ニ竣工セシトナリ  
 ブルックリン市ハハトシツ河ヲ隔テ、ニコローシ府ニ相對シ岸上

好轉結

高樓層閣相接シ街衢端正ニシテ商業亦繁華ナリ合衆國第一ノ大都  
 會ナリ人口六十三万七千五百餘遠クアトランチック洋ヲ隔テ、歐洲  
 大陸ニ隣レリ

○抵弗鹿若林

鐵橋江水畔。屋角映清流。簾影眠鷗穩。涼風夕日收。

午後五時ニコローシ府の旅館ニ歸リ全三十分の列車に駕しポスト  
 ン府ニ發ル車中の觸目ハ土地平遠岡陵起伏し杉松その間に點綴せり  
 幾何もなくして一抹の青煙破屋ニ出て、冲天に横ハるを見るまた暫  
 くよして尺蘆茅屋の處々に散在するを見る須臾にして金鴉遠山に隠  
 れ銀蟾山頭ニ跳れり  
 千八百九拾三年五月廿九日美晴大南風  
 朝暉輝然として樹間に漏る列車ヲ照す首を一轉して外面を眺むるに

廻米記程

前にあるの山岳倏忽として後にあり菓樹去り牧場馳せ双眸眩せんとせざるに瀛笛聲一聲はやくステーションあるを告ぐ即ちポストン府なり時に午前七時四十五分下車して朝餐を喫し夫れより府内の名地を歴遊す

ポストン府ハマサツカセツ州ノ首府ノアル所大西洋ニ望メル天然ノ良港ニシテ人口貳十五万四千餘市街清潔屋宇鱗次ニ電氣鋼車等ノ鐵道アリ港内水深クシテ歐洲ノ商船常ニ輻輳シテ帆檣林立セリ殊ニ諸種ノ製造業甚メ盛大ナルヲ以テ數百ノ煙突冲天ニ聳ユ儼然タル合衆國東北部ノ一都會ナリ而シテコノ府開港稍舊キヲ以テ故蹟マタ夥多ナリ

○波士敦客舎

結句有力

萬里他郷寄此身故山何處遂經旬半窓燈暗睡難熟波士敦城月一痕。

午前十一時十五分發の列車に乗りケンブリッヅニ至りアンドバ大學に臨む一時間にして達す全校ハ神學を授くる所ニして故新島襄氏の卒業せし所なり知友愛媛縣人村井知至氏も亦在學四年ニして卒業せらる校舎壯麗諸器械等も具備せり全四時五分ナイヤガラ行きノ列車に乗る沿道の樹木鬱鬱たり斯くて列車ハますます進行路傍の曠原馳せ瓦礫驅す一路轉して荒涼或ハ樹林の繁茂せる間と過き或ハ巉巖突兀たる邊を経たり時に見る飛泉の高峯に懸るを溪又數曲峯勢いよく逼りてますます急に滄膏碧と凝すを認む幾何もなくして列車ハ山涯羊腸の間を迂回す爲め進行やゝ緩慢なるを覺ふ忽ちにして斜陽深巒の香ひ所となり餘影も見えざるニ至れり

千八百九拾三年五月三十日美晴

昨夜よりおやみなく廻轉しつゝ、ゆるる列車も深山幽谷の間は朝來るも

日光を顯へすこと遅く遙かよ澎湃震吼の響きを耳にするも未だ局所  
に達せぬ瀛關車に音に相應するあるを聞くのみ而して流湍激盪の聲  
もよく近くなるお及んで予の其距離多からざるを思ふの時おあたり  
瀛笛三聲ナイヤガラに着せると告ぐ即ち列車を降りて馬車も移る全  
乗者六名いつきも白人種なり怪巖に沿ふて流るゝ豁間と繞りて行く  
おと數哩にして達す時に午前七時五十分なり

宇宙間第一  
一大瀑爲  
奇觀固矣  
今精細寫  
來筆々欲  
躍

ナイヤガラ河ハ合衆國ト英領キカナダトノ境界ニアリ源チイリ  
湖ニ發シ流レテオ湖ニ注グ此ニ至リテ斷峽ニ激シ怪巖ヲ  
截チ奇石ヲ蹴テ奔落ス分レテ三瀑布トナル其合衆國ノ方ニアルモ  
ハ廣サ大約一千フット一フットハ本邦ノ一高サ大約百八十フットス  
殘氷斑雪今ニ融ケズ氷ノ凝結シテ氷柱トナレルモノ森々下垂シ光  
景頓ニ加ハリ其壯活ナル激雷雲ヲ吐クガ如ク潜龍ノ珠ヲ跳ラスル

奇景入詩  
更覺奇

ガ如シ珠碎ケテ雨トナリ雲散リテ霧トナル目爲メニ眩セントシ耳  
爲メニ聾セントス河底皆岩石星羅棋布シテ水ソハ上チ洶フ漣漪搖  
漾波紋チナシテ流ル而シテコノ注聲靜夜五十哩ハ外ニ聞ユト云フ  
亦世界ノ一大奇觀ナリ

○遊那以邊哥羅大瀑

天下壯觀何物比瀑泉直下亂山間雷聲隱々雲蓬勃畢竟仙寰異俗寰  
○乃瓦刺瀑布にて

おちたきつ砕けくたけて白玉を氷雨どふらせしふきを霧となひか  
せその音の鳴みかつちの一時おおちくるか如く巖か音にひよきと  
よみて見る人の魂もけぬへきナイヤガラこの大瀧のみるもかしこし  
午後〇時三十分音を耳底に止め愛を割きて舊路を取りてステーション  
にお歸り乗車に全一時十五分發車崎々たる怪巖の間と攀ち澗底を涉



ること屬々なり斯くて列車ハ漸次歩と進め近陵遠野を縮めてや、山  
ならざる所に至るや牧場のあるあり麥圃の見ゆるありて暮色靄然遠  
峯より來り終夜進行に

千八百九拾三年五月三十一日朝來少しく曇りしも忽ちにして美晴  
列車中あり觀る所のもの唯漠々たる平原と豊饒なる曠野のみなり  
路傍時に菓實の累々として色赤きを觀また黄なるを賞觀しつゝある  
間はやくも大博覽會の高塔のまむほどに見へて双眸に入る午前九時  
三十五分よしてシカゴ府に着す列車を降り故に旅館に小休歩一步大  
博覽會場に入り工藝館および運輸館を觀る

工藝館ハミンネガン湖面ニ臨ミ頗ル景勝ニ富メリ間口七百八拾七尺  
奥行千六百八十七呎ニシテ總面積三十一エーカーヲ占メ會場内ニ  
於ケル巨壁ノ大建築ナリ而シテ館内ヲ室内器具及裝飾品○陶磁器

及ビ嵌込細工○大理石石材及ビ金屬製紀念碑旌功碑并ニ其附屬品  
○美術金屬細工七寶等○玻璃及ビ玻璃器○裝飾用着色玻璃○彫刻  
○金銀製器具等○寶石品及ビ製飾品○時規業懷中時計懸時計等○  
絹及ビ絹織物○シュエート苧麻其他ノ植物質及ビ鑛物質纖維ノ織物  
○綿亞麻其他纖維ノ織色及ビ絲○毛及交毛織色○衣服地及裝束○  
毛皮及ビ毛皮製衣服○レース刺繡品粧飾品造花扇子等○毛髮細工  
頭飾及ビ化飾用品○旅具衣囊革靴化粧箱意匠革細工杖傘日傘等○  
護謨ガクパーチヤセルロイド及サイロナイトノ製品○玩具及ビ小  
間物○革及革製品○度量衡○兵器大砲及ビ彈丸彈藥等獵用及ビ豫  
用器具軍銃及獵銃○點火裝置並ニ其用具○賦熱及割烹裝置并ニ其  
用具○冷却器中空金屬器錫器湯樂ヲ施シタル器物○金線製器及ビ  
藤有孔板格子細工墻壁工等○鍛鐵及薄製金屬品○地窖金庫鐵器利

器刃物○鉛工及ヒ衛生用具○前ニ記載セザル諸種製造品ノ三十二  
大部ニ區劃シ更ニコレヲ一百九拾錢類ニ小分ス而シテコノ工資ハ  
貳百萬弗ヲ要シタルモノナリ

運輸館ハ會場ノ北端ニアリ長サ九百六十呎幅貳百五十呎ニシテ尙  
ホ其西部ニハ九エークルヲ掩ヘル平家アリテ建築料ハ三十万弗ヲ  
要シタリト云フ而シテ館内ヲ七大部ニ分ツ鐵道鐵道用諸器械及鐵  
道用具○市街用車輛及ヒ他ノ短距離式○諸種ノ鐵道○車輛類并ニ  
通常道路ニ於ケル運搬ノ方法○空中籍氣及ヒ其他ノ運搬法○船舶  
類河海及湖水ニ於ケル運搬法○海戰及ヒ海岸防禦等コレナリ亦之  
レヲ小別シテ四拾三類トス

千八百九拾三年六月一日美晴穩和なり

昨日におなしく大博覽會場へ入り美術館製造館鑛業館イリノイヅ州

陳列館等を廻覽す

美術館ハ會場ノ北部ニ位シ南方ハ入江ニ而ス長サ五百呎幅三百貳  
十呎ニシテ其四面ヨリ廣サ百呎高サ七十呎ノ堂宇相接シテ十字形  
ヲ成シソノ交ル所ニ直徑六十呎ノ圓塔アリテ最トモ意匠ヲ凝ラシ  
タル建築ナリトス館内ヲ彫刻○油畫○水彩畫○象牙七寶金屬陶磁  
器類ノ繪畫壁畫○彫刻版腐蝕版及印刷物○墨筆炭筆パステル及ヒ  
其他ノ圖畫○古今ノ彫刻物メダリオン若クハ寶石彫刻寶石隆起彫  
刻及ビ寶石沈刻○一己人ノ蒐集列品等ノ八大部ニ區別ス  
製造館ハ間口百貳十呎奥行二百呎ノ構造ニシテ化學製品及ヒ藥劑  
藥舖販賣品○ペンキ色料及ヒ假漆類○寫字器紙類薄丹文房具等ノ  
三大部ニ分チ更ニ二十二類ニ小別セリ  
鑛業館ハ入江ノ西南端ニ位シ電氣館ト運輸館トノ中間ニアリ間口

各館皆有  
益如此館  
亦實利之  
本源宜細  
觀而詳察  
也

三百五十呎奧行七百呎ノ大ナル建築ニシテ館内ヲ鑛物鑛石天然金  
屬寶石及ヒ水晶類地學上ノ標本○燃燒質鑛物石炭石油骸炭天然瓦  
斯等○建築用石材大理石裝飾石鑿出シ石材○挽磨月磨利用及ヒ研  
磨用諸物品○黒鉛及ヒ其製品粘土ノ他陶器用材料并ニソノ直接  
製品石絨等○石灰石セメント人造石○鹽類硫黃肥料用鑛物顔料鑛  
泉水ソノ他種々ノ有用鑛物及ヒ合成物○鐵及鋼鐵ノ冶金術并ニ製  
品○鑄金并ニ其合金○銅及ヒ其合金并ニ冶金術○錫ノ冶金術ブリ  
キ等○亞鉛ニツケルゴホルトノ冶金術○安質母尼及ヒ特ニ類別セ  
ザル金屬ノ冶金術○磨體ニヨリテ金銀ヲ採収スル方法○濯洗ニヨ  
リテ金銀ヲ採収スル方法○火熱ニヨリテ金銀鉛ヲ採収スル方法○  
石材鑿出シ及ヒ石工器械○溪流採鑛法水力採鑛法洗流採鑛法○地  
下採鑛ノ器具并ニ裝置支柱法支撐法○穿比及ヒ鑽孔ノ用具并ニ器

械鑛石及ヒ石炭採掘用具○唧筒採鑛用唧筒排水及ヒ物品昇降用ノ  
械關并ニ用具○鑛石石炭等運搬法貯藏法并ニ授受法○鑛石破碎及  
ヒ碎粉器械○撰鑛裝置○試金裝置及ヒ及附屬品○採鑛及ヒ冶金上  
ノ歴史并ニ學說○採鑛及ヒ冶金術ニ使用セシ古來著名ナル器具并  
ニ裝置ノ原品又ハ模型等ノ二十七大部ニ區劃シ更ニコレヲ一百二  
十三類ニ小分セリ

イリノイズ州陳列館ハ間口一百六十呎奧行四百五十呎ニシテ別ニ  
附屬館アリ館内ハ總テ全州ヨリ産出スル物品ヲ悉ク蒐集セル所ナ  
リ

千八百九拾三年六月二日天氣晴朗

前日に續きて大博覽會場に入り家蓄館心藝館及ヒ其附屬館并ヒに合  
衆國模造軍艦等を觀る

家蓄館ハ間口六十五呎奥行貳百呎ニシテ馬、驢、騾○牛○羊○山羊ラ  
 マ象、駱駝及ヒ其他ノ家蓄○豕○犬○猫○フレット兔○家禽及ヒ野禽  
 ○蟲類及ツノ産物○野生動物等ノ十部ニ區別シ更ニコレヲ四十六  
 類ニ小分セリ  
 心藝館ハ工藝館ニ相接シテ間口四百五十呎奥行五百呎ノ大建築ナ  
 リ館内ヲ骨骼ノ發育教育及ヒ健康○内科術外科術及ヒ接骨術ノ器  
 械及ヒ其裝置○初期二期并ニ高等教育○文學書籍圖書館雜誌○精  
 密機械并ニ實驗機械探求器械寫真機械及ヒ寫真○土木公共作業土  
 木用建築○政治及ヒ法律○通商貿易并ニ銀行業○智識ノ増進ヲ目  
 的トスル諸種ノ協會及ヒ組織○社交勸業并ニ共同的協會○宗教組  
 織及ヒ宗派統計并ニ印刷物○音樂及ヒ樂器演劇ノ十二大部ニ分テ  
 更ラニ一百十五類ニ小別セリ

附屬館モ亦同様ノ構造ニシテ歴史前上古ノ建築ニ係ル紀念碑及ヒ  
 住居ノ圖面若シクハ其模形○太古未開及ヒ半開種族ノ家具及ヒ衣  
 服○兵器及ヒ獵具○百工用具○體操遊戲○禮拜物神佛像及ヒ禮拜  
 用器具○歴史的古物學國民ノ進歩ヲ解説スル物品○古代船舶ノ摸  
 形及ヒ解説特ニ亞米利加發見ノ時代ニ於ケルモノ○古代ノ地圖海  
 圖及ヒ航海用諸機械ノ摸造○亞米利加發見以前ノ歴史時代ニ於ケ  
 ル古昔ノ建築都市或ハ紀元碑ノ模形及ヒ解説○亞米利加發見以後  
 ニ建築セル住居ノ摸形及ヒ解説○著名ナル發明ノ原品模寫摸形或  
 ハ精細ナル解説○生活工作ニ於ケル状態ノ改良進歩ヲ解明スル物  
 品○婦人ノ作品○各州及ヒ内外國政府ノ出品○北亞米利加土人  
 ○文化ノ進歩及ヒ社會ノ幸福ヲ幫助シタル大發明家及ヒ其他人士  
 ノ畫像半身又ハ全身ノ彫像○獨立出品及ヒ蒐集出品ノ十七大部ニ

區分セリ

合衆國模造軍艦ハ皆眞形ニ逸ハズ爲メニ見ルコ足ルモノ多シ蓋シ近代兵器ノ進歩ハ驚嘆スルノ外ナシ基督弗爾閣龍勃斯ガ亞米利加大陸ヲ發見スルニ使用シタル軍艦ノ模造ハミシガン湖ニ艤裝シアルヲ見ル

千八百九拾三年六月三日曇天

午前八時旅館を發し大博覽會場内の南部に位する逍遙道に抵り諸外國の産物販賣店殊に日本の販賣店并ニ埃及國カロイの市街土耳其國コンスタンチノーブルの街衢バノラマ館世界ノ美婦人館マリオの村落アルガリア國の寺院および音樂館等を見る

聞我物品  
大獲外人

日本ノ販賣店ハ逍遙道ノ入口ニシテ最トモ好位置ニアリ總体大名ハお屋敷風ナル構造ニシテ長屋門ヲ設ク皆朱塗ナリ門前ハ日章ノ

之愛是固  
不足怪然  
亦莫非可

國旗ト五月幟ノ吹流シハ鯉トナ左古ニ樹テ一寸人目ヲ惹クノ趣向ニ出來タリ觀客モ亦他國ノ販賣店ニ比シ較々出入者ノ多キヲ觀タ

音樂館ハ實ニ廣大無邊ナル宏壯ナル建第ニシテ第一ヲ誦歌室トシ五百人ヲ容ル、ニ足ル第二ヲ奏樂堂トシ百二十人ノ樂師ト三百人ノ謠曲者トヲ納レタル上二千ノ參聽者ヲ集メ得ベシ第三ハ行列所ニシテ二百人ノ樂師ト二千ノ謠曲者ト七千人ノ觀覽者ヲ容レ得可キ構造ニシテ合奏樂伴彈ノ樂器等悉ク具備セザルハ無シ

全 年全月四日曇天夜ふ入り霽れたり  
午前七時三十分旅館を發し前日に續きて大博覽會場内の逍遙道を廻遊し獨乙國ハ村落ムールカの宮殿印度の佛像全國ハ販賣店錫倫島の村落ヲヤク國の村落土耳其の回々教堂ラブラドル國のエスキモー土

人比部落を歴観し歩を移して日本の喫茶店并に鳳凰殿を見終りて本邦の事務館事務員手島山家の二氏を訪ふ

エスキモーノ一部落ハ總數五十七名夫婦アリ男兒アリ女子アリ赤兒アリ氷ヲ以テ柱トシ雪ヲ以テ壁トセル家屋ヲ作リソノ内ニ棲息ス身体薄黒シ頭髮眼瞳モマタ黒色ニシテ軀幹矮少年齡四十前後ノモノト雖モ本邦ノ十四五歳ノ人コ同シ

亦又好評  
可喜

日本ノ喫茶店ハ古風ナル冠木門ヲミシガ湖ニ面シテ建築シ左右ニ土ノ練塀ヲ設ヘタリ正面ノ日本御殿風ノ建築ハ上段ノ間ヲ設ケ次ヲ大廣間トシ階段ノ左右ニ廊下ヲ附スマタコノ左右ニ袖屋ヲ附シ販賣品ヲ陳列セリ顧客ノ出入一日ニ大約千名ヲ下ラズ好評滿場ニ溢レテ葺根ヨリモ高シ

鳳凰殿ハ大博覽會場内各種陳列館ノ稍中心ニ位スルウーデツトア  
イランドト稱スル細少ナル森島ノ南涯ニアリ本邦各種ノ花木ヲ栽植シ絶景ノ勝地ナリ建築法ハ今ナホ山城國宇治ノ郷ニ存在スル八百四十餘年前宇治ノ關白頼通公ノ建立ニ係ル鳳凰殿ノ原形ニ準フモノニシテ左右ニ二個ノ廣キ廻廊下ヲ以テ連絡セル三棟トシソノ中央ノ一棟ハ左右ノ二棟ヨリ稍大ニシテ皆全様ナル構造ナリ殊ニ本邦固有ノ建築法ナレバ總テ白木造リトシ葺クニ銅板或ハ檜板ヲ以テセリ内部ノ裝飾ニ至テハコレ亦一種古代ノ裝飾ヲ爲シタルモノナレモ世ノ公識セル所ナレハ爰ニ贅セズ而シテ博覽會閉場ノ後ハ之レヲシカゴ府民ニ寄附シ永ク日本ノ記念トセラル、趣キナリトカ聞キヌ

午後五時大博覽會々場ヲ辭シ東京府ノ出品委員下關鈴木小林十文字島崎今井等の諸氏ヲ訪ひ歸朝の途に上る可き旨を告げ全七時歸宿夕

餐を了へ行季を治め食料を準備し全十一時二十分加奈多太平洋鐵道  
の列車に乗る

千八百九拾三年六月五日好晴

列車ハ昨夜より北に向つて馳せたり麥圃の畔鶏犬の聲きこえ曠原の  
間牛豕の類多し一たひシカゴ府を發してより紺碧の天穹然として四  
野を掩ふ艸色烟の如く松檜くらく水明かふ儘以て風懷を慰するに足  
る

○シカゴ原よてよめる

みわたせの色を涼しシカゴの原に艸ハ茂れりかなたにも夏の  
來ぬらしこなたおも夏の來ぬらし見渡せの色をすよしシカゴ  
の原に艸ハしけれり

午後三時ミヅリー河の海岸セントポール市に達す列車を降りて市内

を散歩す

セントポール市ハミンネソタ州ミヅリー河の沿岸にありシカゴ府  
以北有名ノ都會ニシテ市街廣濶人家櫛比シ鋼車鐵道アリ米國中屈  
指ノ農業中心地ナルヲ以テ穀類ノ倉庫軒ヲ連テテ高ク聳ユリマダ  
市街ノ外部ニハ麥粉製造所巨多アリ鐵道ノ開通セサル以前ハミヅ  
リー河ノ氷利ヲ以テ三千有余哩ナル長流ヲ下リロイヤナ州ナル  
ニコイオムレアンスノ港口ヨリ遠ク歐洲地方ニ輸送シタリト云フ  
コノ地ノ近傍材木ニ産スルコト夥シ而シテコノ市ノ人口一千八百  
六十九年ノ調査ニヨレハ僅カニ二万二千五百余人ナリシコ今ヤ二  
十万ノ上ニ出ルト云フ其進歩ノ速カナル驚クノ外ナシ  
午後三時三十五分列車は猶北東に向つて發す一望たゞ麥圃の青々た  
ると林檎の葉々たるのみ愈々進行するに隨ひ高からず峻なるさる丘

陵ありこの丘陵の總てサシナ檜の如く燃料に資すべき常盤木を以て  
繁茂せりまた以て用材となす可し全四時峻坂に沿ふて進行する事數  
十里圖らず彼方を見れば密樹茂林と隔てて微らば隱見せる木造の屋  
宇四五あり此處の即ち英領と合衆國領土の境界にて兩政府の税關吏  
交々列車内を更め携帯の荷物を検査はこきより以北の山岳重疊溪流  
潺湲として相通し別に一種の仙境を臨むの思はり峯逼り溪鎖すれ處  
奇岩峯起し綠樹天日を陰し暮色遠くよき來る

千八百九拾三年六月六日曇天午後微雨

拂曉よりの觸目奇を感じるもけなし土地や平垣にして峯列を爲は  
を見ず數岳を後にし清流を迎ふるや倏忽細經荆棘の間を過く漸くお  
して土壤肥沃菓圃牧場等あり

○曉にマニトハ原を過ぎて

山かけお月をのこしてしらみけりマニトハ原のわけほのく空

午前九時十分英領マニトハ州なるウエニベツグに到着す稍市街は形  
体を爲せり全二十分列車を換ひ駛行す九曲の坂は羊腸の路あり一  
轉一回或は高く或は低し而して其高き所の五丈の山となり低き所の  
曠原となるまた記す可きものなし列車の徹夜廻轉は

ぬは玉の夜もくるまに任せつゝ知らぬ野山をゆく旅路の奇

同年全月七日午前小雨午後曇天

朝來るも瞳眸を映するものなく一望荒漠の平原は殘雪の點綴するを  
見認むるのみ時に田舎の軒端は馬を飼ふ土人と英吉利の女皇陛下を  
肩よ負ふ燃る許りの眞亦なる洋服の兵隊銃を擔ふて護衛するあるを  
見る

○題しらす 二首



しらぬ野道は行くれてかそかおみゆる燈火の影もなか／＼身に  
しとてこひしくおもふ故郷や

さし出る月と入る日を野のひろみかなたこなたにならべてぞみる  
千八百九拾三年六月八日曇天

見渡す所ろ髪一線天涯と地際の區別あるのみ艸短く土地荒を太陽の  
艸より出て／＼艸入り旅情の哀を添へしむ彼の在原の業平朝臣か咏  
みさる 世の中お絶えて櫻のなかりせの春の心いのどけからまし  
てふ歌をおもひ出て／＼真似よみしたる歌の

よの中お絶て艸木のなかりせの原のこゝろのどけからまし  
午後三時近き頃原盡に山脈の麓に到る列車の進行西方に向ふや峯巒  
左右に峙立し白雪を戴けり幾何もなくして絶壁天に朝し山溪地を穿  
つ軌道なほ雪ゆり日暮を寒氣骨を徹け

天嶮可驚

全 年 全 月 九 日 曇 天  
かさりなく雪多ければまはあたり白茫をつちの色としも見ん

朝來車窓に映するもの奇石より成れるの山なり怪巖を以て造るの  
峯なり唯見る斷崖屏風の如きとて碧水渦を捲く一見膽なほ寒し本  
邦の耶馬溪も斯くやと思ひをたり其巖石を截開して路を樹て兩側に  
石壁の對立する所ろ危くも列車を輾らす其敷設の困難なりし予が  
如きものも首肯せられたり有名のロッキの山脈これなりこれより  
漸時にしてフレザア河を渉るや巨岩大石を換ての大木直徑十五六  
呎以上のもの森然林を爲し沿道に直立す天日爲めおかくれ白晝なほ  
暗し用材のみな之れを伐採を故おこの邊材木の産出夥多なり林を  
出て進行すること纒かに數哩おしてヴァンクーヴァー港お達す直ち  
お車を降りて港内を散歩し路次日本領事館を訪ふ時お午前六時四十

五分あり

グアンクローグアー港ハ英國領コロシヒヤ洲ニ在リ前ハ茫々タル太平洋ノ海波ニ洗ハレ數多ノ島嶼嶼港頭ニ臚列ス後部ハ葱忽タル岡陵ヲ擁ス灣内水深クシテ大舟ノ定舶ニ便ナルモ開港日猶ホ淺キヲ以テ世ニ著名ナルコモ拘ハラヌ一見唯失望ニ堪ユサルヲ覺ユ市街ハ清潔ナレトモ家屋ハ大概木造ノペンキ塗ニシテ大木ノ斫リ株處々ニ散在セリ而シテマタ市外ナ一望スルコアタリ煙筒ノ煙大空ニ柳曳クヲ見ルハコレナン有名ノ木挽場ナリ人口大概ニ五万三千余アリテ近日繁盛ヲ來ス可キ有望ナル良港トス

○グアンクローグアー港

一音にきこえしグアンクローグアーに来て見をを前ふの島は數多く太平洋よりよる浪の碎けて花と見えにたり

遙呼應前  
省搖曳有  
放

午後〇時三十分列車お乗り南東に向つて發と路側一望綠葉繁茂し峯巒起伏す左手ニ當りて皚々たる白雪を千秋のものとし屹然冲天を貫くを見る即ち有名のペーカー峯なりその形本邦は富士山に髣髴たるを以てまゝ亞米利加富士と俗稱し海邊お面するを以て舟人これを便とて嗚呼予が巖に本邦を發けるに臨み富士か嶺高く笑て送る今また予ハ歸朝の途に望みてあの山影に接す豈に怡然たらざるなきを得んや矧んや單身の旅懷を慰ましむるの思ひあるをやこの邊樹林一帯は繁茂し稍耕作お適すると覺ゆ

○ペーカー峯を見て

黒かねの道ひと筋またはしりはしる車の窓の外をみつゝしをれい小林の畑とかいれり畑はまた森とかいり遠方をふりさけ見れい雪の衣千重よかつきて八重雲の上おそひえて名も高きペーカー

廻米記程

の峯の日の本の富士は高ねの心地して旅路のうさもわすれける哉  
千八百九拾三年六月十日

車窓の満目樹木鬱然として翠滴れんとす間々村落あり人烟稀少よし  
て平原多しこの邊フオーと稱する樹木繁茂す實ハ以て食料とあす可  
し午前八時二十分ワシントン州のタコマ市に着す即ち市内を散歩す  
タコマ市ハ太平洋ニ臨メル天然ノ良港ニシテ今ヨリ十四五年以前  
ハ茅屋三四アルノミナリシガ近郊多クノ木材ヲ産シ且金鑛石炭ノ  
産出ニ富メルヲ以テ近年移住ヲ企ツルモノ多ク千八百八拾八年ニ  
ハ既ニ四千余ノ人口トハナレリ然レモコノ邊土地マタ豊饒頗ル耕  
作ニ適スルヲ以テ五年ヲ經タルノ今日五万余ノ人口トハナレリ去  
レハ現今丘ヲ夷ケ木ヲ割リ口ノ繁殖スルコト驚クニ堪ヘタリ若  
シコノ活勢ヲ以テ進歩スル時ハ今後十年ヲ經ハ米國有名ノ港灣ト

ナリ通商貿易ノ要樞ニ衡ルハ予ノ今ヨリ翹々トシテ待ツ所ナリ而  
シテ昨年中ニ於ケル卸賣ノ金額ハ實ニ一千五百万弗ニ上リシト云  
フ亦諸種ノ學校教會銀行等ノ設ケアリテ愛ス可キ繁盛ノ市街ナリ  
近來日本横濱間ノ定期航海船ヲ開ケリ

### ○多胡摩偶成

綠蔭遮白日。柳外枕江樓。入座風如水。先占六月秋。

午前十時十分シックススツリートの基督教會に至り知友村井知至氏を  
訪ふ氏ありて予を一室に延く氏曰く生ハ今業なり將に歸朝せんとす  
るハ臨ミ宗教上ニ演説を乞請はれ今日午後一時を以て開會當に講演  
スベシと期したり君も亦宿志あらハと問ハる予於是乎敢て説な死に  
あらず然れども英語を能くせさしを恨むと氏また曰く生ハ於て意譯  
の勞を取る可し願くハ一場に講演を乞これをして予ハ直ちに諾した

## 殖民と移住

り演題の何ぞ村井氏の宗教上の革新予の殖民と移住と掲げたり  
 定刻に及んで参集するもの總數七百餘名を以て省たつ詳  
 けたり爰にその大意を掲載すべかりしも冗長を以て省たつ詳  
 細を知らん事を望まひ近刊すべき予が著書殖民と移住を繕けよ全二  
 時二十分全教會を辭し全四十五分サンフランシスコ港までの乗車券  
 を購ひ村井氏と共に列車に上る尙ほ南方に進行す車窓よりありて觀る  
 處のもの唯廣濶たる牧場とフォークの繁茂するのみコロンビヤ  
 河を踰ゆるや田野の耕墾未だ普ねからざるもの多し移住者を容るゝ  
 に便なり山蔭に浴ふて行くこと數十哩金鳥西山に宿るの頃ポルトラ  
 ンド市に著す時に午後七時五十分なりし

ポルトランド市ハオレゴン州中ノ都會ノ地ニシテ西南ハ太平洋ニ  
 面シ東北ハ岡阜ヲ繞ラシ丘涯ニ沿フテ市街ヲ占メタル繁盛ノ所ニ

シテ稍凹形ヲ爲セリ而シテ此地概テ豊饒ナルヲ以テ農業盛ニ行ハ  
 レマシ鑛物木材等ヲ産ス街路清麗家屋齊整人口五万三千餘日本ノ  
 横濱神戸等ヘノ定期發着汽船アリ

千八百九拾三年六月十一日曇天

午前七時旅館を辭し市内を徘徊す全八時十五分發車や、南方に進行  
 せり

## ○發波兒士蘭門

殘月返新樹。稻雲千里青。曉風吹颯々。涼露酒全醒。

軌道の兩側地勢高燥にして綠樹繁茂し牧場點綴せり午後青黛の山麓  
 に沿ふて行く村落を成せるの處林檎葡萄密柑等を培養せり全四時過  
 くるころ岡阜の集まる所あり丘陵の接する所ありて麥圃青々それ間  
 を彌縫に此へん土赤く草青く滿目の風光殊に賞するに足る

## 廻米記程

全 年全月十二日曇天

列車は猶ほ南位に進行す唯見る緑樹の鬱然たる山脚も沿ふて駛走するを姑くみして左折しまた右曲す時に或は茫々たる牧場も數点の牛豚を現はし時或は漠々たる曠野も幾種の菓木を望むこの邊左顧右盼ことく好景佳趣ならざるはかしく午後一時頃予と車室を全ふせし白人七八異口同音の謠歌す意解する事能はざるも耳を欬て聽く村井氏譯して予に告ぐ興味多し蓋し人情に経庭なきもれなりかし午後八時廿五分サンフランシスコ港に到着す

千八百九拾三年六月十三日曇天

午前旅館にありて行季を準備す窓外雲霧の深きを見る之れ港地の常に北方寒帯地より吹來たの風水蒸氣を凝結せしめてかゝる眺めと爲さしむるあり故に午前にありては蒼蒼を仰き見る事を得るの日

の極めて稀なりといふ

○桑港あてよめる

朝な／＼立ぬる霧のこゝかしこ眺先よろしきみとなり鬼

全十一時準備稍整ふ即ち本邦人橋本日野中澤大久保鈴木小田切の六氏と日本料理を媒して訣別を告ぐ午後二時三十分以上の六氏を送らきて波止場へ抵り將おケーリツク號に移らんとす偶然米國政府の官吏らしきもれ來り予に人頭税を求めらる予その故を知らず無解の船内に入らんとす彼れ許さす已むを得は其徴税の理由を詰問は彼を曰くこの地に上陸するものよりの總て徴収するは制規なり宜しく金二弗を拂ふ可し是に於て乎納め倉卒汽船に乗る見渡せは黒烟天を襲ひ抜錨の機熟せるものゝ如し全三時の報鐘を耳にするや汽笛三聲米の大陸を跡にし洋々たる太平洋の海波を蹴て進行す岸上見送り人堵を

惘々之情

廻米記程

描出而妙

爲し或ハ帽を振り或ハハンカチーフを靡かし訣別を惜むと全時に航海の安全ならんことを祈るものゝ如し予船房よりこれを望みて一聲高く兄等の厚情を謝す彼等應して予を爲めに萬歳を唱へらる兎角するうちに桑港の景色ハ霏然たる翠黛とハ變したり即ち室内に蟄居し海上の平穩ならんことを禱る姑くにして斜陽船窓を射る起ちて一望すれハ米陸ハ既に渺茫たる煙波の間に没し去りて見へず四顧たゞ茫乎たり

千八百九拾三年六月十四日曇天

甲板に出て遠望鏡を以て望む一島一嶼の映射はるものなく唯海波の氷然たるのみ

全 年全月十五日曇天

四面一碧また漠然

多少風情

全 年全月十六日午前曇天正午小雨午後薄晴  
船体の動搖甚たし夜ハ入り星光船窓ハ漏る

全 年全月十七日

滿目唯茫茫針路極西に向りて進行

全 年全月十八日好晴

海上稍平穩

全 年全月十九日曇天

怒沸激然しはく甲板を濡ふす人をして愴然の思を起さしむ

○太平洋舟中

千層高浪驚雙眸萬里長風吹旅愁好倚鐵欄歸國夢天邊幾度指皇州

全 年全月二十日美晴

甲板上に昇り首を回らし四顧するも唯漠々予を除きてハ天下また海

原ならざるものなきかと疑はる海面亦動搖

全 年全月廿一日朝來小雨午前九時歇む曇天

波上平穩巨鯨の海水を噴出しつゝあるの態を見る宛も秋野の尾花の風情ありて頗る奇觀なり

明治二拾六年全月廿三日朝來美晴午後三時頃より曇る

海面水涯と雲際と境界を分たせ午後二時汽笛を放つ船員の混雜甚たし椿事の起りしにあらざるやと思ひて愕然たるもの有り即ち就て問ふ曰くこれ火災修練とて萬一の失火に備ふる演習なりと此日東西兩半球の分れ際なる經度百八十度の處を打越したれハ一日を減じて本邦の曆法に則れり

明治二拾六年六月二十四日美晴東風あり夕景に至り微雨

海面亦穩かなり連日の無聊遣る瀬なく徒らに墨を含み紙を舐りて無

亦旅中之佳話

情を呻吟すること久しきの日寒冷身に逼るを覺ふ船員曰くこそ魯國に接する海中なきなりと

全 年全月廿五日午前曇天午後薄晴

波濤亦雄ならず満目の風光唯漠々

雲低死あしたの狭し和田の原ふるさと近くなりやしぬらん

全 年全月廿六日午前美晴午後曇天

海面靜かにして船体の進行序あるに似たり流石に故郷の忍みれて曉の夢だよ結び得ずはやく臥床を離れ故關を眺めはやと甲板上より見廻すに朝霧深く立籠て微かき青空を觀るのみなれに彼の晴れてある所こそわが日本ならんと思へとも水路遙かみしてその影ぶみ見ること能はず去れど我日本はあの邊りに當りつらん愛友の今や如何いけん愁然として懐郷の涙拭ひも敢えざりし夜も入り船体稍動搖

思故園之情欲溢

するを覺ゆ

全 年全月廿七日美晴班雲あり

昨夜より引續きての動搖記す可きの事なし

全 年全月廿八日美晴

朝來暑氣の頓に加ふるを覺ふ船員の曰くこれ日本海に接近せしを以ての故なりと波濤輕荒らきと思ふ曰く又これ日本海を隔つること程遠からざるを以て裾浪てふものゝあるを爲めなりと

明治廿六年六月廿九日曇天午後五時頃より霽たり

海上波靜かにして風弱く船体頗ぶる穩かなり

全 年全月三十日好晴

海面波平かにして油れ如し今日の乗て知る横濱へ着船の當日なるを即ち朝食と終ると全時又甲板上に昇る予め先てるもれ數多ありて

早く日本の片影をたに見ゆやと手に遠望鏡を携ひ群を成せるを見る午時近きころ北方に當りて一れ蒸汽船の駛走するあるを認む幾何もなくして斜路北方に轉して進行するやまた一の帆前船を見出しぬ

○日本近海に帆船を認めて

しるすかあ心の乗らぬ人もあし海邊しつけく片帆みゆれ

午後二時ころに至り本邦の國旗を吊したる一の汽船又遇ふ熟視すればわづ日本郵船會社の汽船廣島丸にして萩の濱及び北海道の各港に向ふものなりまの時に當てハ唯肉眼を以てするも微かに本邦を指點する事を得るに至れり全三時銚子港の燈臺現ゆる程もなくして全燈臺下を距る三哩許りの處に達すこれより針頭南を指し船位を轉ゆるや九十九里勝浦等の海邊に沿ふて進み全五時を過くるの頃米良崎の燈臺下を経て一扶の噴火山を見る伊豆の大島これなり此邊漁艇の帆

亦愴亦快



を装ひたるもの多く宛然紙製の小舟を放ちしか如きの観ありき船体  
また北に向ふや鋸山および富岳の山骨雲よ聳ゆるをみる

富士かねも鋸山も見えみけり右とひたりに色をくらべて

富津に炮臺儼然として観音崎の燈臺を獲るの處暮色蒼然遠くより海面を掩ふ

見渡せりいたゞき白き富士うねの山のつゞきふ日入にけり

羽田岬角の燈臺遠く海面を射て光焰いよ／＼明と加ふるの頃横濱港に抜錨す時に午後八時三十分なり税關局の官吏退廳の後なると以て携帶せる荷物の検査を果さすして旅宿に投ず

明治貳拾六年七月一日好日和

午前六時三十分旅宿を辞し携帶の荷物を引取る着船の期この比よ在る事を知りて豫め東京より此地に來り迎へらるゝもの多し共に午後一時五十分の汽車よて東京の客舎み入る

## 廻米記程大尾

明治二十六年七月十日印刷  
同 年同月十日發行

定價金拾五錢

著作者兼  
發行著者

茨城縣平民

平井慶藏

印刷者

宇都宮榮太郎

常陸國河内郡柴崎村  
大字柴崎百九拾壹番地  
東京市神田區花田町  
壹番地

印刷所

耕文社

同 市同區同町同番地

茨城縣河内郡柴崎村大字柴崎

發兌書肆 文久堂 柳町久四郎

類書兌發堂久文

東洲學人平井慶藏君纂述

辨士必携 演說講習

全壹册 洋裝頗美本  
正 價 金 拾 五 錢

栗田 寬大人序 橋 道守大人跋  
花月館長芝の屋大人編

明治和歌俳諧詠家姓名錄

全壹册 和裝極美本  
正 價 金 拾 五 錢

芝の屋 歌佛大人編輯 蓬の屋大人跋

類題花月集

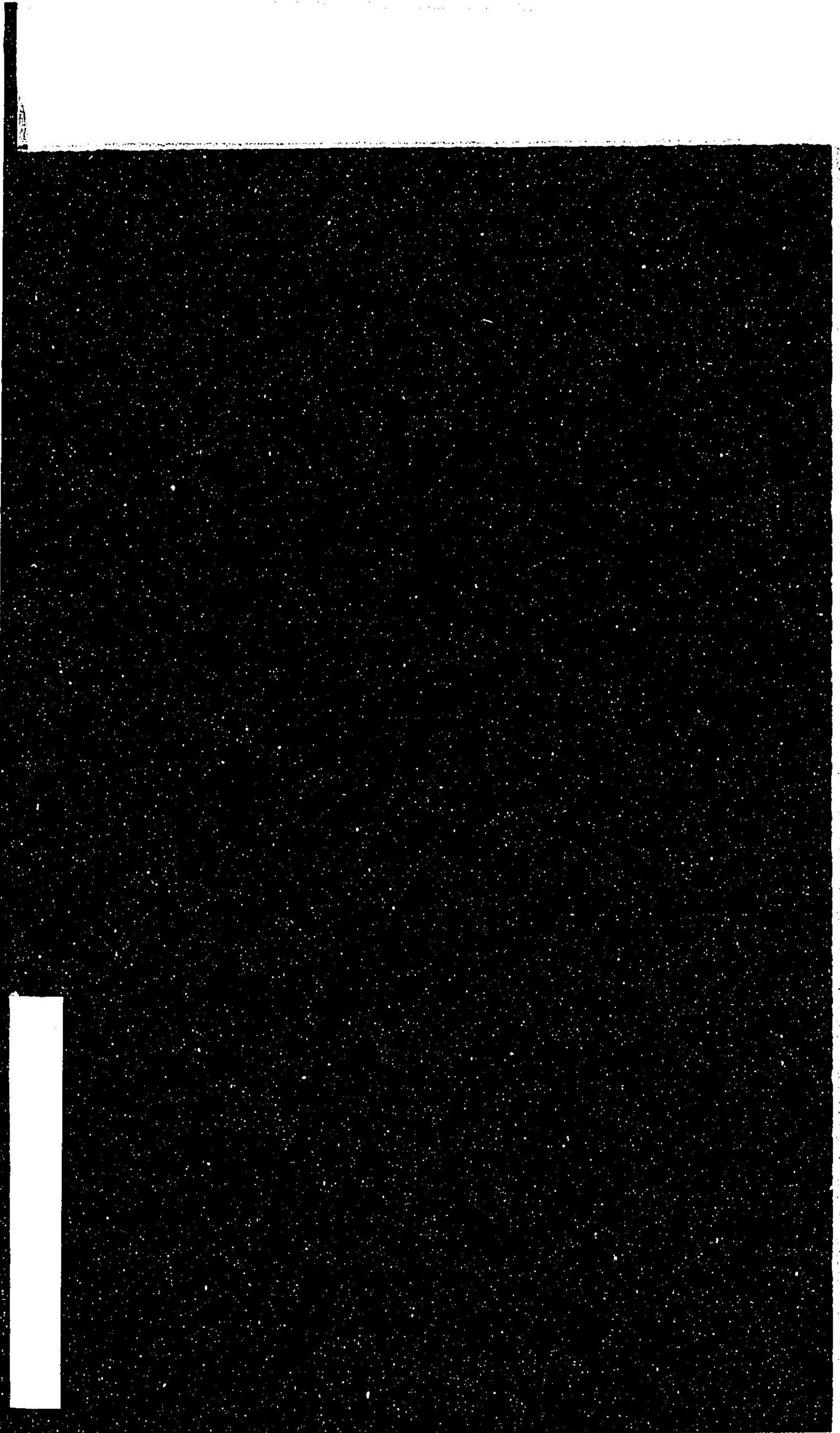
全壹册 岳雪紙摺  
正 價 金 拾 錢

北米探檢者平井慶藏著述

殖民と移住

全壹册 近刻





特46

390

廻米記程

国立国会図書館

026889-000-1

特46-390

廻米記程

平井 慶蔵 / 著

M26

ADG-0005

